

| | |
|-------------|----------|
| 群 教 セ | G15 - 01 |
| | 平27.256集 |
| | 高・キャリア |

平成27年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ミツバ

長期社会体験研修員 飯塚 祐二

I 研修内容

1 研修先の概要

研修先である株式会社ミツバは、1946年に創業し、来年で70周年を迎える自動車電装品の製造メーカーである。創業当時は、自転車用発電ランプの製造を行っていたが、1951年に自動車用ホーンの製造を開始し、現在の主力製品は、自動車のワイパーモーターやパワーウインドモーター、二輪車のスターターモーターなどである。国内に18拠点、海外に14カ国26拠点を展開し、グローバルに活躍している企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 採用教育研修【4月～10月、1月～3月】(研修場所：本社)

人事課では、大卒・高卒採用業務と研修業務に携わった。大卒採用業務では、自社説明会のサポートや選考会での筆記試験監督を行った。高卒採用業務では、学校への求人票配布から会社見学会の準備、選考会の運営を行った。研修業務では、新入社員研修、2年目と3年目のフォローアップ研修、管理者マネジメント研修等の資料準備を行うとともに参加者として受講した。3月に実施された高卒の入社前合宿研修にも人事課の一員として参加した。また、地域貢献活動の一環として新入社員とともに桐生八木節まつりのジャンボパレードに参加した。

(2) 製造研修【10月】(研修場所：新里工場)

製造技術課では、新規の生産設備の製作を行った。機械加工から設備の配線作業まで、設備を動かすための一通りの作業を行った。製造課では、ワイパーモーターの組立ラインに入り、生産活動に携わった。

(3) 生産技術研修【11月～12月】(研修場所：研究開発センター)

11月は、加工技術センターで研修を行った。マシニングセンターや放電加工機による最先端の機械加工を見学したり、NC旋盤による切削加工や切削条件の解析を行ったりした。また、モーターのウォームギヤの転造加工も行った。12月は、工機部で、シーケンスプログラムについての研修を行った。実習装置を用いて、基本的な命令と応用命令を使って動作プログラムを作成した。

(4) 技能五輪研修【2月9日～2月12日】(研修場所：研究開発センター)

青年技能者の技能レベルを競う技能五輪大会に向けて日々取り組んでいる部署にて、機械組立て職種の作業を体験した。やすり加工と測定技術の基礎を学んだ。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

キャリア教育の指導に活用でき、社会で活躍するために、高校でどんなことを身に付けて欲しいかを伝える資料として作成した。具体的には製造業の仕事内容について記載し、製造業には、製品を作る仕事以外にも様々な仕事があることを紹介した。また、人事課長や社員の方にインタビューを行い、企業が求めている人材や必要なスキルなどについてまとめた。

(2) 実践の概要

題材名 「私のビジョン2020－5年後の自分－」(特別活動)

対象 機械科第2学年

社会人に必要な資質を理解させるとともに5年後の目標を立てさせ、学習意欲の向上につなげる

ことを目標とした。社会人に必要な資質を理解させるために、新入社員研修で実施している製造業について疑似体験できる演習を取り入れ、その体験から考えさせた。また、学習意欲の向上を図ることをねらいとし、学校の勉強が役に立つことや企業が求めている人材などについて、協力校の卒業生や人事課長にインタビューを取り、紹介した。

II 研修成果

1 採用教育研修について

採用研修では、企業が求めている人材について理解することができた。今後の教科指導や生徒指導の中で、生徒に身に付けさせられるようにしたい。また、大卒の採用業務に携わり、高卒との違いを改めて実感するとともに、実際の就職事情を目の当たりにする機会となった。教育研修では、年次教育から管理者向けのものまで幅広く受講し、社会人になっても学びに終わりはないと感じた。今後の進路指導において、社会人として学び続けることの大切さについても生徒に指導したい。

2 製造及び生産技術研修について

研修員という立場ではあったが、多くの生徒が就職する製造業の仕事を体験できたことが何よりも大きな成果であった。生産技術研修では、製造業における開発研究部門の業務を体験できた。工業高校卒業の方も多く活躍しており、工業高校で学んだことがどのように生かせるのかが分かった。また、実際に加工や制御プログラムを学ばせてもらい、工業科の教員として最新の技術と製造業で求められる知識や技術を知ることができた。

3 学校組織の活性化に向けて（企業での取り組みを学校へ）

企業での研修を通して感じたのは、組織の活性化のためには、「報告・連絡・相談」が大切だということである。研修先では、定例ミーティング（週1回以上）の実施やメールを用いた連絡を行うなど情報共有が徹底されていた。部課長への報告や打ち合わせ等がしっかり行われており、組織一丸となって活動している様子がうかがえた。

4 キャリア教育実践について

演習を通して、社会人に必要な資質について理解させたいと思い授業を行ったが、想像以上にチームワークの必要性や考える力を生徒一人一人に身に付けさせることができた。また、インタビューの紹介を通して、高校で学んだことが実社会で役に立っていることを理解させることができ学習意欲の向上につながられた。さらに、生徒自身のキャリアプランを考えるよい機会を与えることができた。

III まとめ

今まで製造業の実態をほとんど知らずに進路指導をしていたが、この研修を通して最先端の製造技術や企業が求める人材について知り、将来、製造業で働きたいと考える高校生に、より具体的な進路指導を行うことができると感じた。また、企業が求めている人材や必要なスキルについて理解することができた。具体的には学ぶ習慣と意欲である。学校の勉強を基礎とした上で、就職してからも意欲的に学ぶ姿勢があると、企業で活躍できる人材になるということが分かった。学校で学ぶことの意義について様々な場面を通して生徒に伝えていきたい。さらに、教え子の成長や工業高校を卒業した方たちの活躍する姿を見て、工業高校の教員としてのやりがいと責任の重さを、改めて実感した。

本研修を通して、進路指導力と工業科の教員としてのスキルが向上した。また、人事課での研修を通してミドルリーダーとしてのスキルも身に付けることができた。この貴重な経験を進路指導だけでなく、教科指導や学校業務にも生かしていきたい。

（担当指導主事 中村 正典）